

公募助成「腎不全病態研究助成」研究サマリー

研 究 名	糖尿病性腎症・糖尿病性腎臓病において腎性貧血と腎病理所見が長期予後に及ぼす影響
所 属 機 関	金沢大学
氏 名	清水美保
<p>【研究目的】糖尿病性腎症合併を病理診断された2型糖尿病例の腎・生命予後に、腎生検時のヘモグロビン(hemoglobin: Hb)値と腎間質線維化・尿細管萎縮(interstitial fibrosis and tubular atrophy: IFTA)が及ぼす影響を検討した。</p> <p>【研究計画】金沢大学ならびに国立病院機構金沢医療センターで腎生検を施行され、糖尿病性腎症合併を病理診断された2型糖尿病233例(男性154例/女性79例、平均年齢58歳)を対象とした。腎生検時のHb値は、3分位に分類した。IFTAは、Renal Pathology Societyより提唱された糖尿病性腎症の病理分類(J Am Soc Nephrol 2010; 21: 556-563)ならびに2012年～2014年度厚生労働科学研究費補助金「糖尿病性腎症ならびに腎硬化症の診療水準向上と重症化防止にむけた調査・研究」により作成された「糖尿病性腎症と高血圧性腎硬化症の病理診断への手引き」(日腎会誌 2015; 57: 649-725)に基づいて評価した。</p> <p>【研究成果】</p> <p>① Hb低分位群では、IFTA進展の有無にかかわらず「高年齢、推算GFR低値、びまん性病変・結節性病変・滲出性病変の進展」を認めた。IFTA軽度例では「BMI低値、細動脈硝子化の進展」、IFTA高度例では「女性の割合・尿アルブミン(蛋白)陽性例の割合・収縮期血圧の高値、メサンギウム融解の進展」も認められた。腎生検時のHb値と最も関連する病理所見として、IFTAの進展が抽出された。</p> <p>② Hb低値の腎複合イベント発症(腎代替療法開始 かつ/または 腎生検時の推算GFR値から50%低下)ならびに総死亡に対するリスク増加が、IFTA高度例ではIFTA軽度例に比してより顕著に認められた。</p> <p>③ 以上より、2型糖尿病に伴う糖尿病性腎症において、Hb低値が腎・生命予後に及ぼす影響とIFTAとの関連が示された。これらの結果をまとめ、論文投稿(revision)中である。</p> <p>【学会発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 清水美保、北島信治、遠山直志、原章規、岩田恭宜、坂井宣彦、和田隆志：第63回日本腎臓学会学術総会 一般演題「糖尿病性腎症における貧血ならびに間質線維化・尿細管萎縮と腎・生命予後との関連」 清水美保、北島信治、遠山直志、原章規、岩田恭宜、坂井宣彦、和田隆志：第65回日本透析医学会学術集会・総会 一般演題「糖尿病性腎症による腎複合イベント発症例の生命予後に、貧血と腎間質線維化・尿細管萎縮が及ぼす影響」 清水美保、北島信治、遠山直志、小倉央行、佐藤晃一、宮川太郎、原章規、岩田恭宜、坂井宣彦、古市賢吾、和田隆志：第35回日本糖尿病合併症学会・第26回日本糖尿病眼学会総会 一般演題「2型糖尿病に伴う糖尿病性腎症の腎・生命予後に貧血と腎間質線維化・尿細管萎縮が及ぼす影響」 	